

「新しいみえの文化振興方針（仮称）」骨子（たたき台）の構成イメージ

文化を取り巻く環境

- <不易：文化に期待されるもの>
 - 個人や地域におけるアイデンティティの基盤
 - 感性や創造力を高め、心の豊かさを育むエネルギー源
- <流行：環境の変化>
 - 情報通信手段の多様化、情報のグローバル化

みえの文化の現状と課題

- <みえの文化の特長>
 - 日本の精神文化の源流－伊勢と熊野
 - 地域性豊かな文化
 - 交流による発展
- <「三重の文化振興方針」の主な成果と課題>
 - 方向1～広げる、高める～
 - (成果) 県民が多様な文化にふれ親しみ、また優れた成果を発表する場を提供
 - (課題) 施設間における事業連携の推進
 - 方向2～守る、伝える～
 - (成果) 国史跡齋宮跡の調査等を通じて、地域の歴史学習やまちづくり活動を支援
 - (課題) 観光振興や地域の活性化につなげるため、地域と連携した活用策の検討
 - 方向3～つながる、発信する～
 - (成果) 日本まんなか共和国等他府県との広域連携の中で文化分野の連携・交流を促進
 - (課題) 三重の多様な文化の魅力を効果的に発信するため、広域連携の仕組みを活用
 - 方向4～創造する、生かす～
 - (成果) 歴史街道やまちかど博物館等、地域の文化資源を生かしたまちづくりを支援
 - (課題) 施設・文化団体だけではなく、市町、学校等幅広い関係者との関係の構築、各部の所管する施策との連携の推進
 - 方向5～支える～
 - (成果) 各館が拠点機能を発揮し、特色ある取組を展開
 - (課題) 「文化交流ゾーン」の構築の推進

広域自治体としての
県の役割や
さまざまな主体と
の関係にも留意

- 環境変化への対応
- 良い所を伸ばす、課題を解決する

「みえ県民カビジョン」の基本理念

県民力でめざす「幸福実感日本一」の三重



方針の基本目標

- ①文化を通じて幸福実感を高めるとともに、次代のみえを担う若い世代を育成する
- ②県内外に誇りと愛着を感じられるようにするとともに、みえの文化の素晴らしさを郷土に誇りと愛着を感じられるようにするとともに、みえの文化の素晴らしさを
- ③多様な文化を受け入れ、交流・連携することにより、新たなみえの文化を創造する

基本目標の実現に向けて、次の6つの方向で施策を展開

施策の方向性1 トップを伸ばす

<ねらい> 県内で活動する個人・団体の目標になるとともに、みえの文化の素晴らしさを広く県内外に発信するキーパーソンを育てる

施策の方向性2 次代を育てる

<ねらい> 特にこれからを担う若い世代が文化に触れる機会を増やすことで、10年後の本県を担う人間性の豊かな人材の育成に資する

施策の方向性3 磨いて伝える

<ねらい> 今ある文化資源に光りをあて、さらに磨きをかけて次代に伝えることで、未来の県民の皆さんが自らの地域に誇りと愛着を感じられるようにする

施策の方向性4 拠点をつなぐ

<ねらい> 文化施設の集積を生かして、「文化交流ゾーン」を、より多くの方が訪れ、さまざまな文化に接し、感性を高めるとともに、文化に新しい息吹を吹き込むことができるような場とする

施策の方向性5 かけ合わせて生み出す

<ねらい> ものづくりや観光に文化の側面から新たな価値を加え、活性化する。
また、新たなみえの文化を創造するとともに、広域的に連携することで、みえの文化の魅力を高める

施策の方向性6 効果的に発信する

<ねらい> 県民の皆さんに郷土の魅力を再発見してもらう
また、県外（海外を含む）の方々にみえの文化の魅力を伝え、体感してもらい、さらに好きになってもらう

重点